

世代超え帯広川体感

帯広川での自然体験を通じて世代間交流や地域活性化を目指す「帯広川伏古地区子どもの水辺協議会」(関川三男会長)が発足して1年、初年度は計12回の活動に665人が参加、子供たちは川の楽しさを知って郷土への愛着を深めるなどの成果があった。8日午前10時から新年度初の活動「サケの稚魚放流と帯広川体験会」を行う。体験会には地域外からの参加も可能で、「子供も大人も参集を」と呼び掛けている。

8日サケ放流と体験会

「子供も大人も参加を」

帯広市西21南2の新興町内会(柏谷和夫会長、170世帯)有志の発案で昨年4月に同協議会がスタートした。地域を流れる帯広川で水質検査や水生生物を調べ、ライフジャケット装着で川流れなどを体験する活動に、初年度は小学生・幼稚園児ら子供340人と大人325人が参加した。参加者からは「楽しかった」「またやりたい」と好評で、関川会長は「将来を担う子供たちに郷土への愛着を持ってもらえた。世代間の交流で安全・安心な町、地域がよくなる活動につなげたい」と2年目に臨む。



伏古地区水辺協の活動好評 2年目始動

帯広川で大人が子供に自然を教え、世代間交流が実現した(昨年7月の開西小体験学習)

新年度最初の活動となる体験会では、帯八中でふ化させたサケの稚魚約1000匹を放流、川の生物を調べ、水質検査も行う。当日は町内の「チビッコ広場」集合、ぬれてもよい服装と川に入る履き物、飲み物を持参。問い合わせは澤木さん(33・8346)へ。

(横田光俊)